

新年度を迎えて

会長 高橋 志保彦



4月から平成28年度（2016年度）になります。気を引き締めて新年度を迎えたいと思います。

昨年度は日本トイレ協会30周年の節目の年度でした。私が2013年の会長就任時に目標にしたトイレの書籍作りも「トイレ学大事典」として柏書房から刊行できました。トイレをアカデミックにかつ総合的に網羅した世界で初めての事典として大変好評を博しています。執筆者はそれぞれの専門的研究や経験や豊かな知識によって、読み応えのある深い内容を著わして頂きました。編集に携わった

委員の方々、査読調整委員の方々の総力の結集によって可能となったもので、関係された皆様には心より感謝しています。

30周年記念事業の担当副会長として山本耕平副会長が力を発揮され、5月には会場を日本大学のご協力で30周年の記念フォーラムと総会を開催。設立当初の同志であった鴨下一郎衆議院議員の特別参加でこれまでの30年を振り返ることができました。台湾、シンガポールのトイレ協会や韓国の友人からの多くのメッセージも寄せられました。11月には全国トイレシンポジウムを東洋大学のご協力で開催し、経産省から国の方針、特に災害時のトイレ対策もお聞きすることができました。

有村治子前国務大臣（＝女性活躍担当大臣）の「女性が活躍する社会づくりに最も大切なのはトイレだと気が付いた」と、大臣肝いりで「日本トイレ大賞」も話題になり大変結構なことでした。ただ、大臣が変わるとこれ1回限りとなり、政策の継続性が窺がわれず誠に残念です。こういう表彰こそ続けることに意義があることと思います。

メディアも数多く取り上げるようになりました。テレビ、新聞、雑誌等多様です。百花繚乱のようでもあります。玉石混交、真面目に深く取り上げているメディアから上っ面だけの興味本位の番組や記事までいろいろです。でもそれでもよく、国民がいささかでも今以上の知識を得て、平常時・災害時のトイレを含め、少しでもトイレ問題の重要性とトイレ文化の理解を深めてもらうことが大切だと思います。

いま、日本トイレ協会の社会的認知度を上げることや、企業からの寄付を受けやすくすることや、協会の事業を積極的に行うため、昨年総会で承認・決議された「一般社団法人化」に向けて、定款案を作り理事会で精力的に検討を進めております。来たる5月の総会で会員みなさまに承認されれば直ちに「一般社団法人日本トイレ協会」として発足することとなります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、生活者、観光客、来訪者すべての人が好感を持てる「グッドトイレ推進運動」も有志で検討を重ねています。

2016年度も期待の持てる年であることを確信するとともに、諸活動への皆様の積極的参加をお願いいたします。

—世界に発信する日本のトイレ文化—東京オリンピック・パラリンピックに向けて—

東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授
日本トイレ協会理事 川内美彦



◆1：車いす対応トイレと不正利用

車いす対応トイレは不正利用をどう防ぐかにずっと悩まされてきている。長時間の占有、犯罪、未成年者の喫煙といった、トイレ本来の目的以外に使われることで、本当に必要な人が使えなくなってしまうという問題に対し、以前には、カギをかけて利用したい人が要請すれば開けるというような試みが行われていた。

しかし、公園等ではカギを保管しているお店は夜には閉まってしまうし、そもそもそのお店がトイレから遠くにあるという場合もある。利用したい人は切羽詰っているのに、これでは役に立たない（写真1：カギの保管場所を示した貼り紙が

風雨にさらされてちぎれそうになっている）。

こうした問題から、カギをかけるのは適当でないということがわかってきた。しかし鍵をかけないとすると、不正利用の問題に直面する。そこで、もっと多くの人に利用してもらうことで、自然に人の目に触れるようにしてはどうかということで、あえて開放的に、「どなたでもご利用ください」としたのである。

しかし「どなたでも」というのであれば、車いす対応だけでは不足である。そこで車いす対応トイレの中に乳幼児用ベッド、乳幼児用いす、子供用便器などを設置するようになった。そのことで、ベビーカー連れの人たちがどんどん使うようになった。すると車いすから、あのトイレは本来は車いすのためだったのに、使えないことが増えたという不満が出るようになってしまった。

もう一度カギをかけることは簡単であるが、それでは元に戻るだけだ。しかも、これまで社会から排除され続けてきて、その苦しさを一番よく知っている障害のある人が、自分のための施設だと言って他者を排除する側に回ることは、これまでの主張と矛盾することになる。

◆2：トイレの機能分散

ベビーカーを押す母親が自分の用を足すとき、わが子をブースの外に残すわけにはいかない。かといってベビーカーごと中には入れないから、子どもを抱っこしてということになる。ベビーカーを外に置きっぱなしならば盗難の心配があるし、かといって折りたたんで中に入れば相当狭苦しい。どちらにしても子どもを立たせておく場所はないし、昔のように背負い紐ではないから、母親はだっこして用を足すことになり、これはこれで大変使いづらい。車いす対応の広いトイレが人気なのは、こういった安全への不安や、もともとあって潜在していたニーズが出てきたと考えられる。



写真1：トイレの貼り紙

だったらそのニーズを反映する必要がある。子供用トイレ、子供用洗面、着替え台、オストメイト用汚物流しなど、トイレの機能はどんどん多様化している。そこで、これらをすべて車いす対応便房に集めるのではなく、一般便房に、腰掛式便器、手すり、乳幼児用いすや乳幼児用ベッドを設置して、トイレ全体で多様なニーズを引き受けようという考えが出てきた。これを「トイレの機能分散」という。

◆ 3 : 簡易型多機能便房

また、車いす使用者に2種類のニーズがあることも明らかになった。現在の車いす対応トイレは中性だが、性別トイレを使いたいという声がある。一方で、異性介助があるので現在の中性トイレが必要という声もある。

車いす使用で男女別を希望する人は、一人で用が足せ、車いす操作も一人ででき、手動が多いという傾向があり、車いすは小型の場合が多く、小さな部屋でも使える人が多い。このニーズに対しては、性別トイレの中にやや大きめのブースを作ることで解決できる。これは「簡易型多機能便房」という呼称で、男女の性別トイレの中に既に導入され始めている。この「簡易型多機能便房」は、車いす使用者以外でも、従来の便房に狭さを感じていた子育て世代にも歓迎されている。

一方、車いす使用で中性トイレを希望する人は異性介助を受ける人で、障害が重度なので車いすは大型の傾向があり、トイレを介助者と共に利用するので大きな部屋が必要となる。また介助がいらない場合でも、電動車いすを使う人は大きな部屋なら使いやすい。ということで、このニーズに対しては従来の車いす対応ブースで対応できる。

こうして現在のトイレは、機能分散によって多様なニーズをトイレ全体で引き受け、車いす使用者には広くて中性の車いす対応便房とやや広くて性別トイレの中にある簡易型多機能便房で対応するという方向になっている。

◆ 4 : トイレのランドマーク

車いす対応トイレは数が少なく、車いす使用者にとって、どこに使えるトイレがあるかは重要な情報である。たとえば行政の建物やデパートなどには使えるトイレがあることを車いす使用者は経験的に知っている。であるならば、トイレにおけるランドマーク的な場所を作ることで、ここに行けばある、という社会的な約束を作る事ができるのではないだろうか。行政の建物やデパートなどは営業時間に制限がある。また行政の建物は土日に閉まっている。日常生活においては、年中無休で長時間営業のところに使えるトイレがあることが望ましい。たとえばコンビニ、ガソリンスタンド、ファミレス、ホテル等はランドマークになるのではないだろうか。これらは町の要所にあり、大きな看板で目立つ。コンビニは大きなトイレは難しいかもしれないが、何らかの改造で実現できる可能性がある。ファミレスやホテルは大きめのトイレが設置できるし、維持管理も心配ない。既に車いす対応トイレが設置されているところも結構ある。ガソリンスタンドは広いトイレが作りやすいし、車で行く時には一番役に立つ。これまで各地でトイレマップを作る作業が続けられ



写真 2 : 簡易型多機能便房

てきたが、このようなトイレのランドマークが整備されれば、もうトイレマップを作る作業は不要になる。これらの場所は地図やカーナビに載っているの、見知らぬ町でも容易に見つけることができるであろう。

車いす対応トイレのありかを探す方法として、もう一つ有力なものがある。NPO 法人 Check が運営している「Check A Toilet」のウェブサイトには全国のトイレ情報が載っている。これらを収集するのはこの事業に参加する一般市民である。NPO 法人 Check はスマホ用無料アプリを開発しており、参加者はそれをダウンロードし、車いす対応トイレを見つけたら写真を撮り、「Check A Toilet」のサイトにアップする。そうするとサイト内の地図にピンが立って、トイレ情報となるのである。参加者は自分が集めたトイレ情報が地図に載っているのを確認し、みんなの役に立っていると実感することができる。「Check A Toilet」の情報では写真が重要である。これまでのトイレ情報は文や記号、図面による情報が主であったが、写真を見れば一目瞭然である。これまでは、使えるか使えないかは情報収集者の判断に頼ることが多かったが、写真によって利用者が自分で判断できるようになったのである。

◆5：東京オリンピック・パラリンピックに向けて

東京オリンピック・パラリンピックの会場のアクセシビリティについては、国際パラリンピック委員会のアクセシビリティガイドラインである「IPC ガイド」が大きな役割を持つ。

オリパラに用いない会場		0.50%
オリパラに用いる会場	オリンピック時	0.75%
	パラリンピック時	1.0%～ 1.2%

つ。表1にIPCガイドが定める車いす対応座席数を示す。

IPCガイドでは「アクセシブルな座席は、様々な販売価格、観覧方向、エリアで提供しなければならない」と述べており、会場内での分散配置を求めている。

この座席数に対してのトイレの規定は、「アクセシブルなトイレを必要としている利用者15人に1箇所」が適当だとしていて、これは座席と同様の分散配置が求められる。またそのトイレは、「男女共用のアクセシブルなトイレを設置するのが望ましい」として、中性トイレを勧めている。またパラリンピック時には車いす対応席の数も増えることから、「特にパラリンピック大会の場合、アクセシブルなトイレを付加すべきである」と述べ、「追加設備は男女別のトイレの中に設置することも可能」として、簡易型多機能便房の可能性についても述べている。

実はわが国のバリアフリー法では、競技場観客席のアクセシビリティに関する規定がない。また「15人に1箇所」といった量に関する規定もないことから、IPCガイドの規定は今後のわが国のトイレ設計に一定の影響を与えるものと考えられる。

◆6：今後のトイレ

今後もトイレは社会的要請に基づいて変化していかなければならない。その中で私は以下の諸点に注目している。

① 性化

昨年あたりから性的マイノリティに対する関心が高まっている。トイレに関しては特に性的越境者（性同一性障害）への配慮が求められるようになるであろう。2015年9月13日にAFP＝時事は、米サンフランシスコの小学校で性別越境者のニーズを受け止めるために男女別トイレを段階的に廃止する取り組みが始

まったと報じている。また、発達障害のある人とその介助者とが異性の場合、これまでに既に設置されている車いす対応の中性トイレでは車いす使用者から批判的な目で見られるといったことで違和感があるとの声もある。

このようにトイレに対するニーズが多様化し、それぞれのニーズに合わせたしつらえが求められ始めている反面、多くの設計者にとってトイレがそれほど重要視されていないという現状は変わっていないし、トイレ面積を増やすのも容易ではない。

以上から、面積を増やさずに多様なニーズに応えるため、今後はトイレの男女の区分けをなくして中性トイレとしていくことが真剣に考えられるべきではないだろうか。

②男性トイレの個室化

2015年5月21日朝日新聞大阪夕刊によれば、西日本高速道路では男子トイレの小便器を減らし、大便器（腰掛式）を増やす工事を始めているという。腰掛式便器に座って小用を足す男性が増えており、また個室での滞在時間も増加しているとの観測によるものだが、腰掛式便器が普及している海外では個室に入って小用を足す男性が珍しくないことから、この傾向が進んでいく可能性がある。

③自分だけの空間化

最近、車いす対応トイレで長時間過ごす若い人が増えている。そのトイレの空きを待っている車いす使用者の実感である。鏡を見て身だしなみを整え、まさに自分の個室として利用しているようなのである。わが国のトイレは清潔であるし、車いす対応トイレには洗面設備や大型の鏡が設置されている場合が多く、また相対的に利用頻度が低いという他に他の性別トイレとは隔離されているので、ゆっくりと寛げるものと思われる。現代人はトイレに排泄以外の用途を求めているようである。これに応えるには、それぞれに洗面設備と鏡、小物置き棚やハンガーといったものを備え、密室度を増した個室が求められるであろう。

④まとめ

以上から見えてくるのは、個室化、密室化を高めた男女共用トイレであり、今後の検討テーマとなっていくものと思われる。

◆7：最後に

わが国のトイレは世界的にも非常にユニークな発達をしている。これほど多様な機器が使われ、様々な工夫が行なわれ、変化し続けているトイレはほかにはないと言える。温水洗浄便座のようなハイテク機器も公衆トイレに使われている。プラスチック製のものも多い。これを海外でやったら、即座に破壊か盗難に遭ってしまうであろう。つまり、わが国で使いやすいトイレを求める活動が広く展開できている背景には、社会が「安全」であることがきわめて重要な役割を担っている。これほど安全で、清潔な国をどう維持できるかは、今後のトイレのあり方を左右するといえるのではないだろうか。



北九州市 井筒屋1F（設計事務所ゴンドラ）

グッドトイレ推進運動の展望

日本トイレ協会副会長 山本 耕平



日本トイレ協会の設立と活動の目的は「いいトイレ」の普及。30年前の公共トイレは「汚い、暗い、臭い、怖い」のが当たり前で、ここから「4K」という言葉が生まれました。「いいトイレ」を探すために、全国のトイレから「これはいい！」とみんなが感心するようなトイレを「グッドトイレ10」として顕彰する活動が始まりました。毎年のシンポジウムで選ばれたグッドトイレ10の情報は全国の地方紙に掲載され、地方都市の公共トイレ改革にも多大な貢献をしました。JRが民営化されたときに最初に着手した取り組みはトイレの改善でしたが、グッドトイレに入賞したときに受賞記念パーティが開かれたほどです。

グッドトイレ10は、現在はソフト面での評価も加えたグッドトイレ選奨として継続していますが、かつてに比べればどのトイレも「いいトイレ」といえるようになりました。4Kの時代からは考えられないくらい、きれいになりました。インバウンド観光（訪日外国人旅行）が増えるにつれて、日本のトイレは世界一などと言われるようになってきました。しかし温水洗浄便座が備わっていることだけが「いいトイレ」ではありません。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致の際のキーワードは「おもてなし」でした。公共トイレに光を当て、「トイレ革命」と「トイレ文化」を先導してきた日本トイレ協会としても、「トイレでおもてなし」の輪を広げていきたいと思えます。

「トイレでおもてなし」の意は単に高機能な便器が設置されているというだけでなく、車いすの利用者など移動や行動にハンディを持つ人、高齢者、乳幼児など「トイレ弱者」に対する配慮、文化や習慣の違う国々の人たちに対する配慮、心のこもった清掃などを含むもので、これを「グッドトイレ」と呼ぶことにし、おもてなしの心がこもった「グッドトイレ」を広めていくために「グッドトイレ推進運動」を展開することにしました。

グッドトイレ推進運動は、①グッドトイレの定義（評価基準）を明らかにする、②グッドトイレを普及していく、という二つの活動を進めていきます。外部から評価するのではなく、トイレを設置したり維持管理したりする主体が自己評価し、グッドトイレとして「名乗り」をあげてもらおうという仕組みを考えています。評価基準に沿った設備を備えていること、維持管理体制が確立し快適さが保たれていることを要件として自己評価し、基準に該当する場合は共通のマークを掲示してもらうという仕組みです。施設の規模によって求められる基準が異なるので、★で評価する方法も検討しています。★★★のトイレは、例えば、男女別の多機能トイレがあり、パウダースペースがあり、子供用便器があり、多言語表示があり・・・などです。

現在は、有志メンバーによるワーキングチームで基準を検討しています。自治体でも、高知県や群馬県などでは「おもてなしトイレ」基準を設けていますが、こうした自治体の基準なども参考にしながら、全国に通用するものを提案したいと思います。



2020年のトイレを考える

コマニー株式会社 製品開発部 研究開発課 主査 高橋 未樹子

日本の公共トイレは機能面や清潔面からみて既に世界一と言っても過言ではないのではないだろうか。実際に、海外からの旅行者や帰国者に対して海外と比較した日本のトイレの評価に関するアンケートをとったことがあるが、ほとんどの人が「日本のトイレが一番きれいで機能的」と答えた。しかし、自宅のトイレと比べたらどうだろうか。例えば、温水洗浄便座。「公共トイレでも必ず温水洗浄便座にしてください」という声がある一方、「家では使うけど外では使いません」という声も聞かれる。私もノズルが汚れているのを見てしまって以降、見た目にきれいなトイレや、使う人が限定されている会社のトイレでしか洗浄機能を使えなくなってしまった。このように、せっかくの日本の技術・機能を活かしきれいていないこともあるので、清掃に関してはより細部までの清掃、便器メーカーにおいてもノズルに汚れが付かないような工夫をお願いしたい。

また、2020年に向けて、私はより“個”への対応、特に障害者や海外からの旅行者に対する“個”への対応が求められてくるのではないかと考えている。

① 障害者に対する“個”への対応

今の日本の障害者への対応は、1人の障害者に対してどうするか、という考えのもとに行われているように感じる。実際、多機能トイレが複数並んでいるところを見かけることはまだ少ない。しかし、医学の発達もあり図1のグラフに示すように年々身体障害者の数は増え続け、日本の人口に対する高齢者や障害者の割合は高くなっている。更にパラリンピック開催時には、世界各国から障害者アスリートや見学者が訪日することが予測される。たくさんの、しかも集団で訪れる障害者への対応をどうすべきか。今までのように「多機能トイレを使って下さい」というだけでは対応しきれなくなる。だからといって、多機能トイレみたいに大きなトイレをたくさん作ることもできない。そうなれば、それぞれの状況に応じて多機能トイレだけではなく一般トイレも使ってもらわなければいけなくなってくる。車椅子の人みんなが多機能トイレのような広いスペースを必要とするわけではない。1400mm×1600mm程度のスペースで十分な人もいれば、中には通常サイズのブースであっても扉の開口さえ650mm以上あれば、扉は閉められないけれども自己導尿できるという人もいる。最近では多機能トイレを車椅子だけでなく乳幼児連れや高齢者、オストメイトの人なども使うことが増え、多機能トイレの混雑も課題になっている。以前、多機能トイレを使った高齢者にその理由を調査したことがあるが、「手前にあるから、手すりがついているから」と、広さではなく、歩く距離が短いことや手すりがついていることから多機能トイレを選んでいる人が多かった。そうであれば、手すりや杖ホルダー(図2)が設置された通常スペースのトイレを多機能トイレの横に「高齢者優先」として作ることで、多機能トイレの混雑という問題も解消できるのではないだろうか。視覚障害者や聴覚障害者など様々な身体特性のことを考えると、1つのトイレをみんなが使いやすいようにという考え方ではなく、それぞれ“個別”に応じたトイレブースを集めて、1つのトイレ空間とすることが求められるのではないだろうか。

これは何もトイレだけに言えることではなく、様々なところで考えていかなければいけない。例えば、現状は車椅子の人が電車に乗ろうとすると、必ず駅員がスロープを持って補助しているが、集団の車椅子の人に対していちいちこのような対応を行っているとう電車が遅れてしまう。1人で乗れる人には1人で乗ってもらう、駅員だけでなく私たち周りの乗客もお手伝いする。日本全体で、障害の有無に限らず日本を訪れる人みんなをおもてなしできるようにしていきたい。



図1. 身体障害者数の推移



図2. お年寄りへの配慮(手すりや杖置き)

② 外国人に対する“個”への対応

近年、図3のグラフに示す通り、海外からの旅行客が年々増えており、2014年には1341万人を突破した。政府は2020年には2000万人、2030年には3000万人と目標をたて観光立国を目指している。このようななか度々課題となるのが、習慣やマナー、宗教の違いである。とりわけイスラム教は食べ物が限定されたり、お祈りが必要であったりなど戒律が他の宗教に比べて厳しい。トイレにおいても、排泄後は陰部を水で洗う習慣がある。そのため、イスラム教徒にとって温水洗浄便座は非常に便利である。しかし一方、敬虔なイスラム教徒の中には温水洗浄便座で洗うだけでは足りなく、しっかりと流水で洗いたい人もいる。ペットボトルに水を入れてブースに持ち込むイスラム教徒を見かけたこともあるが、その後にトイレに入ると便座が濡れていて不愉快な思いになってしまった。聞いてみると、温暖な気候のためなのか排泄後にトイレットペーパーで拭く習慣はなく、濡れたまま衣服をつけるので、便座が濡れていても拭く習慣がないのかもしれない。宗教の違いによる慣習なので、「郷に入れば郷に従え」というわけにはいかないのではないだろうか。外国人が多い国際空港などにおいては温水洗浄便座だけでなく図4のようにシャワーも設置するなど、イスラム教徒など“個別”への対応が求められるのではないだろうか。

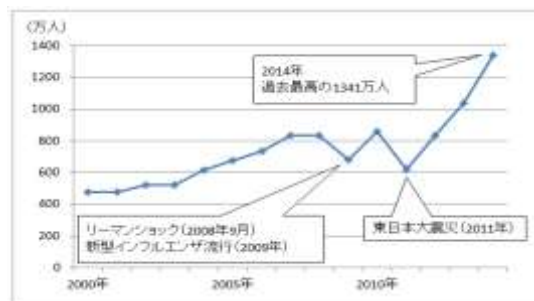


図3. 訪日外客数

イスラム教徒への対応では、トイレだけでなく礼拝室の設置も望まれる。礼拝の前には手足(肘や足首まで)や口、鼻孔まで水で清めるため、図5のような足も洗える洗い場がないところではトイレで洗うこともある。トイレの洗面台に足を上げて洗うため洗面台まわりがびしょびしょになってしまう。日本人はあまりイスラム教になじみがないので、お互いに不愉快な思いをしてしまうこともあるだろう。成田空港や羽田空港など、少しずつ礼拝室を設けるところが増えてきたが、今後は更にイスラム教徒などへの“個別”の対応として、様々な施設にトイレとは別にお清めの場も設けた礼拝室を設置し、よりみんなが気持ちよくトイレを使えるようにしていきたい。



図4. 洗浄便座+シャワー



図5. 足も洗えるお清めの水場
(金沢モスク)

長崎・トイレ案内板 「身障者（多目的）トイレの手すり特集」

「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会 豊福 和範

◆はじめに

私は一時期体調を崩し、リハビリを体験しました。

この体験を通して身障者（多目的）トイレを見てみると、便座に着座した時にL型手すりが右側にあるのか、左側にあるのかで利用できる場合と、利用できない場合がある事に遭遇しました。

身体にハンディ・キャップがある方にとって、着座したときの手すりの設置情報はとても重要です。しかし、ここで1つ目の問題があります。

「L型の手すりが右側か、左側か」は何処の場所から見たものなのでしょう？身障者（多目的）トイレの扉を開けた時なのか、それとも便座

に座った時なのか。前者と後者では180度違う場合があるのです。つまり定義がないのです。そのため私は「便座に『着座して』の状態」から見てみました。（以降「着座して、」を基準とする。）

次に身障者（多目的）トイレのマークを見てみると、2つ目の問題があります。このマークだけでは手すりがどのように設置されているのか判りません。身体にハンディ・キャップのある方にとって、患側（麻痺側）と便座に着座した時の手すりの設置が同じであれば、それは使用困難なものになります。この問題は扉を開ける前からトイレマークと一緒に情報として提示することで更なるバリアフリーになるのではないでしょうか？

私は実体験から上記の問題を発見しました。そして平成26年に開催された「長崎がんばらんば国体」の『あなたが想う「ながさきの未来」作品（絵画・写真・映像）大募集！』に提出して訴えてきました。この成果から「長崎がんばらんば大会」の大会ハンドブックに採用されたり（会場サービスのアイコン）、手すりの設置状況が改善されたり、手すりの設置状況が表示（長崎県諫早市内）されたりしました。

私は手すりの設置情報を長崎県から日本中に広げたいです。そして2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」の時に来日される世界中の身体にハンディ・キャップがある方々に対して、日本の「お・も・て・な・し」の1つになる事を熱望します。



名称：長崎県営バス・
長崎ターミナル1階
場所：長崎市大黒町

◆利用しやすい手すり



名 称：百花台公園・第9駐車場側〔雲仙市国見町〕

設置状況：着座して、両側に横棒縦スライド手すり

特 長：洋式便器をトイレの壁側から中央へ移動したことでL型手すりが無くなり、車イス利用者にとって移乗できる範囲が広がった。



名 称：道の駅 彼杵の荘〔東彼杵郡東彼杵町〕

設置状況：着座して、右側に壁・L型手すり、左側に横棒縦スライド手すり

特 徴：手すりとは別に便座の正面上部から吊り輪（らくらくつりわ）がある。

◆早急に改善してほしい手すり



名 称：橋公園・河川公園側〔雲仙市千々和町〕

設置状況：着座して、左側に壁・L型手すり、右側に横棒横スライド手すり

特 徴：L型手すりの縦棒が横棒から床面（下部）に延びている。
また横スライド手すりの固定ロックが上部にあり、安定性に問題がある。



名 称：金比羅公園〔西彼杵郡長与町〕

設置状況：着座して、両側に手すりナシ、左名称側斜め前・L型手すり

特 徴：洋式便器の横に手すりが無ければ、多目的トイレとしての手すりの意味がない。

◆私の意見が実を結んだ

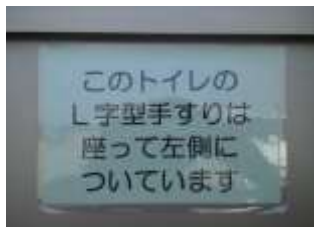


名 称：中里河畔公園〔諫早市多々良町〕

設置状況：着座して、右側に壁・横棒手すり

左側に横スライド手すり

特 徴：洗面台の手すりがあるため、横スライド手すりが外側に動かず（開かず）内側に動くようになっている。横スライド手すりから縦スライド手すりに交換された。



名 称：なごみの里運動公園・CF間側〔諫早市多良見町〕

解 説：諫早市内の多目的トイレの扉には、このような表示が付き始めた。
また『座って』の表記を入れるように要望し実現した。



名 称：第14回全国障害者スポーツ大会 長崎がんばらんば大会
大会ハンドブック 20ページ

解 説：あなたが思う「ながさきの未来」作品（絵画、写真、映像）！

（募集期間：平成25年11月25日～平成26年3月31日）に「身障者（多目的）トイレの手すり特集」というタイトルで写真作品を応募すると同時に、長崎県庁・障害者スポーツ大会課に、多目的トイレ手すりの設置情報を記載して欲しいと力説したことで、ハンドブックの20ページ（会場サービスのアイコンとして）に載せて頂いた結果です。

◆県内の色々な手すり



名 称：岩峠インター広場〔東彼杵郡波佐見町〕

設置状況：着座して、左側に壁・手すりなし。右側に横棒縦スライド手すり。

	<p>名 称：江戸町公園〔長崎市江戸町〕 設置状況：着座して、両側に壁・L型手すり</p>
	<p>名 称：小田貝塚遺跡公園〔西海市大瀬戸町〕 設置状況：着座して、右側に横棒固定手すり、左側に横棒縦スライド手すり</p>
	<p>名 称：世知原野球場〔佐世保市世知原町〕 設置状況：着座して、両側に横棒固定手すり（左側は内側に曲がっている）</p>
	<p>名 称：野岳湖公園・東サイトキャンプ場側〔大村市東野岳町〕 設置状況：着座して、右側に壁・波型手すり 左側に横棒横スライド手すり</p>
	<p>名 称：東公園〔五島市栄町〕 設置状況：着座して、右側に壁・L型手すり、左側に手すりナシ</p>
	<p>名 称：元宮公園・警備員詰所側〔長崎市布巻町〕 設置状況：着座して左側に縦棒と横棒手すり、右側に横棒横スライド手すり</p>
	<p>名 称：和三郎公園〔西彼杵郡長与町〕 設置状況：着座して、右側に横棒固定手すり、左側に横棒横スライド手すり</p>

調査したトイレの表(平成27年10月29日現在)

〔調査したトイレの情報については私の HP をご覧ください <http://www.just.st/7160971> 〕

地区	調査した トイレ	多目的 トイレ	施設中 多目的	BB 併設	BC 併設	OS 併設	US 併設	多目的に 小便器設 置	女性用に 小便器設 置
長崎市	356	142	2	63	23	8	5	17	2
諫早市	201	64	0	38	7	14	0	4	5
雲仙市	78	35	1	18	7	5	7	0	1
大村市	77	41	0	10	3	5	2	1	0
五島市	10	8	0	3	1	0	0	0	0
西海市	102	30	1	8	3	1	0	0	0
佐世保市	152	81	4	26	9	7	0	1	15
島原市	45	27	0	18	10	8	4	2	3
平戸市	38	17	0	11	11	5	1	0	1
松浦市	82	29	3	11	6	5	0	4	1
南島原市	74	25	1	12	1	0	1	0	0
時津町	25	10	1	1	0	0	0	0	0
長与町	63	15	0	4	2	2	1	1	0
川棚町	29	7	0	6	2	1	0	1	2
波佐見町	16	5	0	1	1	0	0	0	0
東彼杵町	27	6	0	3	2	2	2	0	2
佐々町	23	8	0	5	1	1	0	0	0
合計	1398	550	13	238	89	64	23	31	32

BB:ベビーベット、BC:ベビーチェア、OS:オストメイト、US:ユニバーサルシート(多目的シート、介助シート等)の略称

◆報告者紹介



氏名：豊福和範

出身地：福岡県福岡市

最終学歴：西日本短期大学 法科 I 部社会福祉法学コース

主な資格：社会福祉士 (第 107292 号)

介護福祉士 (第 D-581451 号)

国内旅行業務取扱管理者 (23-43-5189)

2 級福祉住環境コーディネーター (29-2-07454)

助手：豊福大輝、豊福香帆

支援：豊福晶子

協力：「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会



東京オリンピックに向けたトイレの多言語対策

中日本高速道路株式会社 東京支社 環境・技術管理部 環境・技術チーム 山本 浩司
伊藤 佑治

1. はじめに

中日本高速道路株式会社(以下、「NEXCO 中日本」という。)では、日本の最先端技術を活用した道路交通システムの展開を重要事項と捉えており、2020年オリンピック・パラリンピック大会、及びポストオリンピックに向けた新たなサービスについての検討を実施している。

本稿は、これらの取り組みのうち、日本の高速道路休憩施設のトイレ(以下、「トイレ」という。)便房内に有する最先端の機能及びこれらを使用することにより得られる感動を、より幅広く、さまざまな人へ、さまざまな国へ広げることを念頭に置き、トイレ便房内のサインの多言語化対策について検討を実施したので報告する。

2. 背景

NEXCO 中日本では、従前より、ビジット・ジャパンへの取り組みとして、外国人旅行者にもわかりやすいピクト・サインを推進しており、2012年の新東名高速道路供用以降、サインには4ヶ国語(日本語、英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語)表示を実施しているが、結果として、サインが煩雑でわかりにくいといった声も寄せられている。

さらに、2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会は、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(平成26年1月31日)のなかで、基本ルールは日本語、英語による表示が望ましいとしながらも、外国人の来訪者数や誘致目標等、施設特性や地域特性の観点から、英語以外の表記の必要性が高い施設を対象に、その他の必要とされる言語(スペイン語、フランス語、タイ語、インドネシア語等)の表記が望ましいとされている。

このような状況を踏まえ、NEXCO 中日本では、ユニバーサルデザインやピクト・サインに関する知見を有する東洋大学 ライフデザイン学部 北真吾准教授とともに、トイレ便房内のサインの**多言語化対策**について検討を実施した。

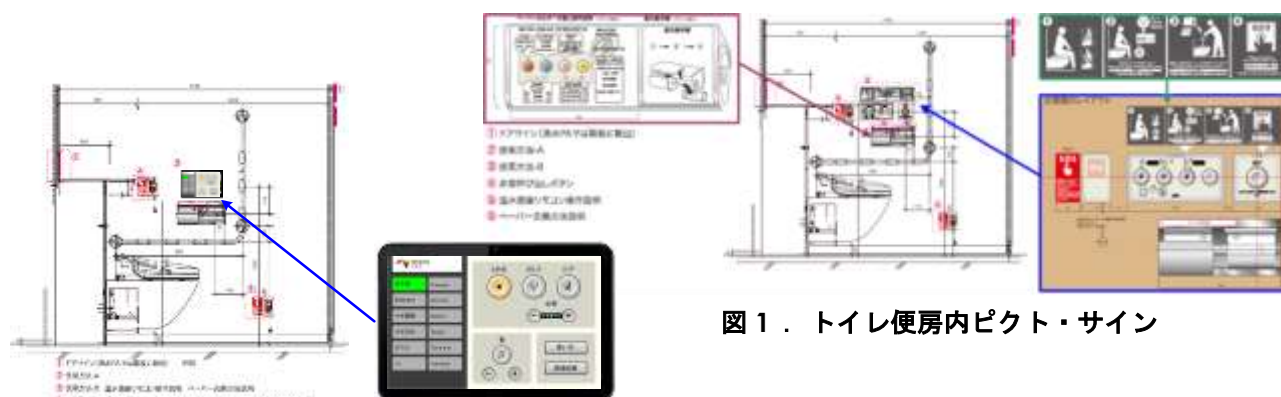


図1. トイレ便房内ピクト・サイン

図2. トイレ便房内ピクト・サイン
(多言語化対策後)

3. 検討結果

(1) トイレ便房内のサインの配置見直し

トイレ便房内のサインは、誤操作によるトラブルの解消を目的に、記名系サイン(設備名称)、説明系

サイン(使い方, 機能説明)及び注意警告系サイン(危険の回避)が配置されているが, すべてのピクトに多言語でサインを表記した場合, 非常に煩雑な空間となるため, 本検討では一般化したピクトへのサインの表記は割愛することとした。

また, さらなる取り組みとして, トイレに有する最先端の機能, 及びこれを使用することによる感動を, より幅広くさまざまな人へ, さまざまな国へ広げることを念頭に置いたピクト・サインについても検討を実施し, 説明系サインの強化を図ることとした。具体的には, お手洗いの操作系設備の使用方法を一連の流れで表現することで, お互いに補完し合い, 文字による説明が少なくても理解しやすいピクト・サイン計画とした。

(2) 便房内の操作系の見直し

上記対応により, トイレ便房内の多言語化対策は具現化できると思われるが, これによるサインの煩雑さは回避できていないため, 本検討では, 便房内の操作系の見直しを行うこととした。見直しは, 多言語化対策として市場への導入が著しいデジタルサイネージを活用することとし, 具体的には, スタートメニューで言語を選択した後, 選択された言語による説明系サインを確認しながら温水暖房便座及び洗浄*等の操作をタブレットから操作するものとした。

これにより, 先に掲げる課題の解決が期待でき, 更には, デジタルサイネージの整備に伴い設置されたPCサーバーを活用し, 清掃ボタン・アンケート集約機能, 更にはスマートフォンアプリによる休憩施設案内図(目的となる施設への誘導含む), トイレ利用状況等を配信機能の付加についても検討を行っている。

*洗浄ボタンは, バックアップとして併設することとした。

(3) 言語

サインに使用する言語は, 国土交通省, 東京都等の動向を勘案し, これまでの4ヶ国語(日本語, 英語, 中国語(繁体・簡体), 韓国語)に, スペイン語, インドネシア語, タイ語, ベトナム語, フランス語, ドイツ語, イタリア語を追加することとした。

4. 試行導入

上記の検討結果を踏まえ, 2016年3月より, 首都圏中央連絡自動車道 厚木PA(外廻り)男子トイレ・女子トイレの各5ブースにて試行を開始した。今後は, ここでの試行結果を踏まえ, 運用評価を行い, 必要に応じて機能改善等を実施する予定。

5. まとめ

本検討では, トイレの多言語化対策について検討を実施したが, ここでの経験も踏まえ, 今後とも, より多くのお客様に, 「より快適」「より便利」「より楽しい」休憩施設お手洗い空間を提供することとしたい。

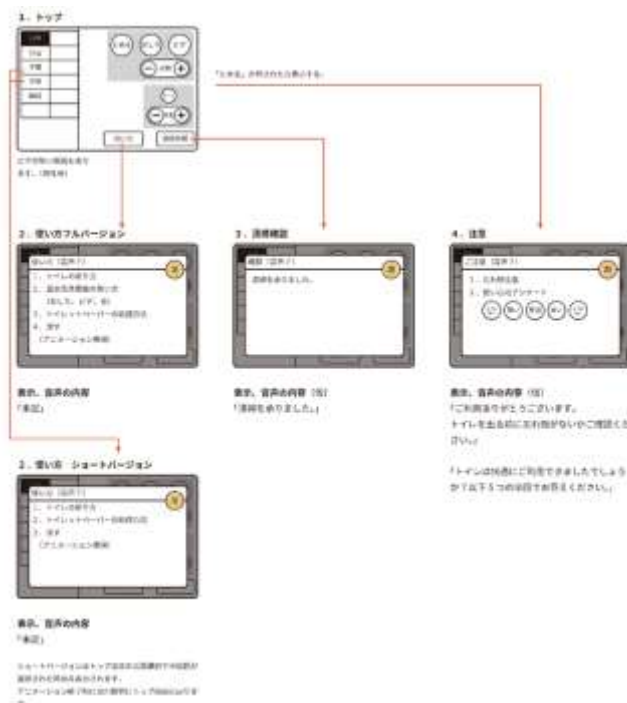


図3. 画面遷移(多言語化対策後)



図4. 試行設置状況

理事会経過（2015年2月～3月）

■ 第8回理事会

日時 2月1日（月）17時30分～19時50分

場所 ㈱レンタルのニッケン BF会議室

- 議題 (1) トイレ推進運動について (2) 法人化への取組について
(3) (公財) 東京観光財団コンベンション事業部からの検討依頼について
(4) 2016年度定例総会及び第32回全国トイレシンポジウムについて

■ 第9回理事会

日時 3月7日（月）17時30分～19時55分

場所 ㈱レンタルのニッケン BF会議室

- 議題 (1) 2016年度定例総会について
(2) 第32回全国トイレシンポジウムについて
(3) グッドトイレ推進運動の進捗状況について
(4) 一般社団法人化の進捗について
(5) 台湾トイレ協会前理事長からの書簡について

2016年度日本トイレ協会定例総会のご案内

開催日時 平成28年5月21日（土）13時30分開会 15時 講演 17時 交流会

会場 ㈱レンタルのニッケン BF大会議室 [東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル]

講師 新津 春子氏（羽田空港清掃担当） テーマ：「清掃におもてなしの心を込めて」（仮）

詳細は5月発送の「総会のご案内」及び「総会資料」にてお知らせいたします。

編集 後記

いきなり私事で恐縮ですが、この春は私にとって、大きな節目となりました。なぜなら入会してちょうど20年が経過したからです。1996年3月に学生だった私は、事務局に入会の意思を伝えたところ、「これから正式な会員制度を作るところなんですよ」と聞かされ、それまでは有志の集まりに過ぎなかったこの組織が、社会からの要請を受けて、さらなる飛躍をするのだと知り、大変感動したものです。しかし当時の協会ニュースは枚数が薄く、情報量も決して多くはありませんでした。でもだんだん情報量が増えていき、トイレの奥深さを感じたものです。

あれから20年が経過し、最近では報道等でトイレの情報を見ない日が無いほど世の中のトイレ情報は充実しました。しかしマスコミの情報は誰かの研究の二次使用であることも多いものです。そんな中、この協会ニュースの記事は、まさに会員の日々の努力の結晶であり、生きた情報であり、世界初の研究等も多く含まれています。こんな貴重な資料はほかには無いでしょう。これを読んでいれば、周囲の人に「トイレ史の預言者」と思われるかもしれませんよ！（笑）ぜひ隅々まで熟読していただければ幸いです。〔白倉正子／理事〕

日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

〒112-0003

URL: <http://www.toilet-kyoukai.jp>

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム1F-A

e-mail: jimukyoku@toilet-kyoukai.jp

Tel: 03-5844-6123